

社長の一棟入魂!!!

桜前線の待ち遠しい季節になりました。

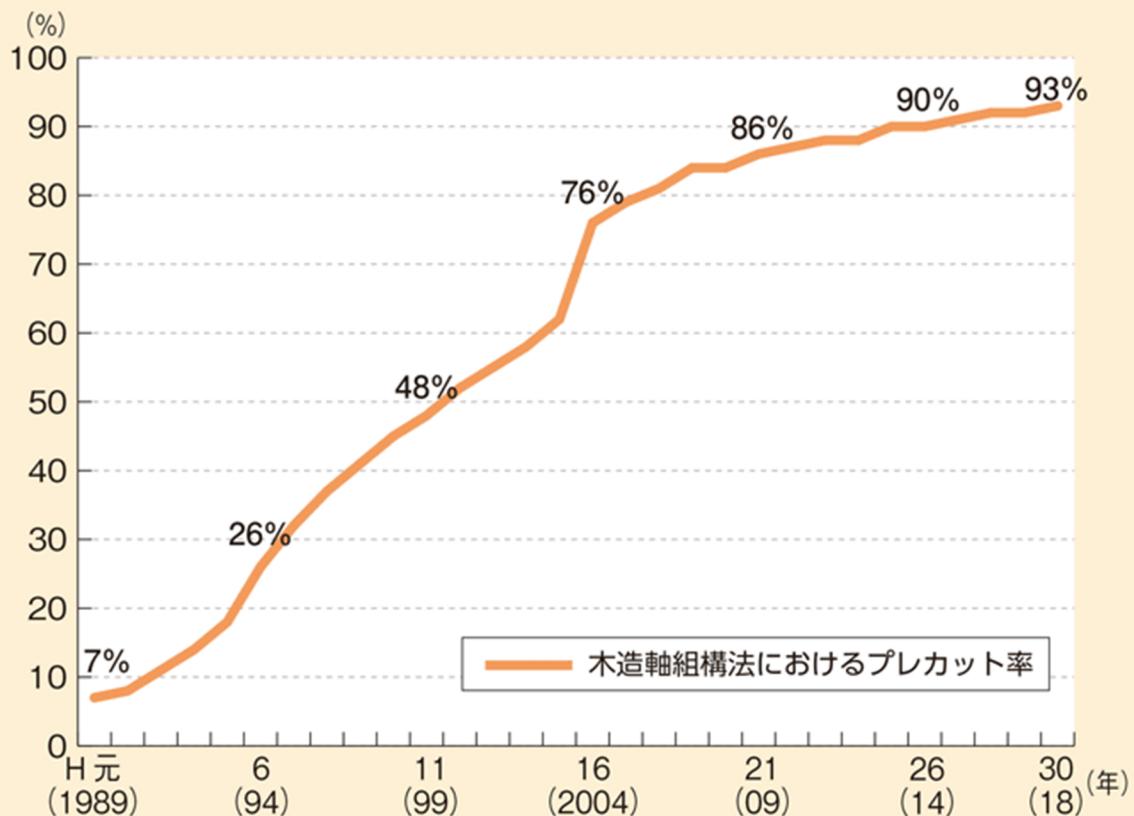
日頃は大変お世話になりありがとうございます。

先月に続き、「大工」のことを書かせて頂きます。

木造住宅を新築する際、昔はすべて「切組（きりくみ）」で木材の加工をしていました。いわゆる、大工自ら墨付けを行い、ノミやカンナを駆使し手刻みで加工をしていました。

それが今や、93%以上がコンピューターを使用したロボット加工「プレカット加工」に移行しています。

資料…一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ



資料III-48

木造軸組構法における プレカット率の推移

プレカットはとても合理的で、職人不足やスピードアップにはもってこいの機械ですが、反面、大工の技術継承は止まってしまい、ノミやカンナを使える大工が育たなくなってしまいました。私はそこに危機感を覚え、若い大工には可能な限りノミやカンナ等の手道具を使用することを指示しています。これだけ機械の性能が良くなり、工業化建材が普及すると、新築工事で手道具の出番は少なくなりますが、改修やリノベーションでは、手道具が扱えないと良い仕事はできません。プレカットの普及も大事ですが、手仕事の継承の方がもっと大事な時代がやって来ると思っております。